FURUTECH

Review

Audio　Accessory

オーディオアクセサリー大全ー2022-2023 - JAPAN

NCF採用の完成型フラッグシップ電源ケーブル

NCFの特徴を活かした表現の魅力 このケーブルならではの音が楽しめる

ケーブル部にも入念な電磁ノイズ対策を施した従来モデルから、入出力端子部をNCFモデルに変更した、フルテックの最高峰電源ケーブル。特殊素材NCFを端子ボディ部に調合することで、ナノ単位のセラミックパウダー、カーボンパウダーによる、これまでの強力な制振効果に加えて静電効果を向上。ノイズ発生を抑えて静寂感を高めるとともに、音の濁りを排除し、埋もれていた音源本来の魅力を引き出すことを狙っている。新たな最高峰の音を福田氏が探った。

Photo by 田代法生

FURUTECH PowerFlux-NCF-18

電源ケーブル
¥327,800／1.8m(税込)

Specifications

●端子の電極部：高伝導性を有する純銅にロジウムメッキ●プラグボディ部：特殊素材NCF調合●ケーブル導体：α-導体(68 本／0.127 mm×7) ×3、外径2.8 mm●ケーブル絶縁体：特殊PE(赤、黄、自然色)、外径：5.4 mm●ケーブルシース：1→RoHS指令適合カーボンパウダー調合柔軟性PVC(内層)、2→RoHS指令適合柔軟性PVC(外層)、外径16.5mm●ケーブルシールド部：0.12mm　α-導体撚り合わせ編組●ケーブル仕上がり外観：ナイロン糸編組、外径約17. 5 mm●※長さの特注品は別途見積もり

●NCFを採用する最高級モデル

多くの製品で好評のNCFを最上位電源ケーブルにも採用

フルテックの最高級電源ケーブルがバージョンアップされ、このほどお目見えした。ケーブル部分には最上位のAlpha950-18-Powerfluxが採用され、新しい特徴としては、プラグとIECコネクターにNCF素材を使ったやはり最上位のFI-50 NCFシリーズが装着された製品である。NCF(ナノ・クリスタル・フォーミュラ)とは、ナノ粒子化したイオン化する特性の強い鉱物を、樹脂とハイブリッド化した素材のことで、制振性能が高く、SN比を改善する効力も大きいため、最近のフルテックの製品ではケーブルスタビライザーや電源プラグなど、多くの製品で活用されて効果を得ている。

●芸術系の音の追求に最適な1本

純粋かつ滑らかな質感を備え高品質で帯域特性を広く表現

Text by **福田雅光**
Masamitsu Fukuda

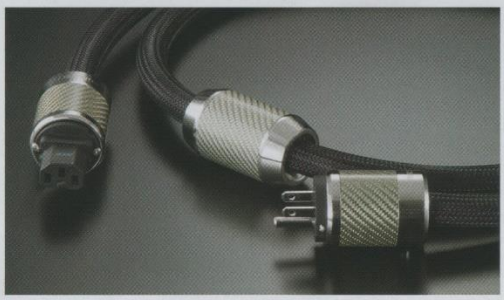
高S／Nで冴えた弾力感のあるエネルギー 伸びやかな声楽系の表現力も大きな魅力

例えば新しくオーディオ機器を導入した時。プリメインアンプ、パワーアンプ、CDプレーヤーなど、とりあえずは付属電源ケーブルで、まず初期状態の音を確認することから始まるはずだ。そして感動や感激、納得がある。ただ、ベテランにはどのよう音質で鳴ってほしいといったような製品に対する考えがあるため、新しい課題も出てくる。使う条件の違いや、好みにはひとりひとり理想があるのがオーディオであるからだ。

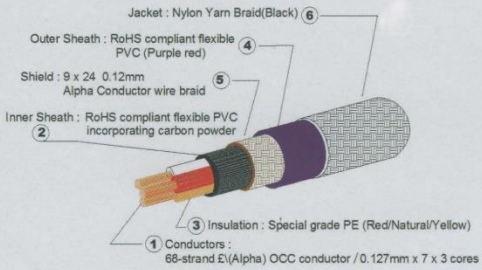
アンプでは、真空管アンプやA級アンプを高度に追求するマニア達もいる。ピュアで潤いを備えた柔らかな音質は、憧れであったり、目標としてきたオーディオサウンドの理想であることも多い。もし理想と違いがある場合、それはアンプの電源ケーブルの変更で調整することが可能である。

製品に付属されている電源ケーブルは、メーカーの標準的な音質を示すものであり、そこから変更することは可能だ。各種の高級電源ケーブルが発売されており、電源ケーブルのグレードアップはたいへん効果的といえる影響力がある。しかし高級品へとやみくもに変更しても、目的にしている結果が得られるものではない。

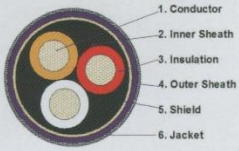
電源ケーブルの性質は大きく分類すると、写実系と芸術系が存在する。これを選び、使い分けないと目的を達成することは難しい。芸術系とは、林立する音を明確に鮮明に表現することとは逆に、純粋かつ滑らかで、柔らかな音質を基調にするウォームな質感を重視することである。クオリティが高く、帯域特性を広く表現する高性能さを特徴にする。フルテックの今回の電源ケーブルは、その目的に最適な性質を備えた製品であることを理解できた。



端子ハウシング部はステンレス合金削り出しで、内部は制振性のある特殊樹脂を採用。外側はシルバーカーボンファイバー仕上げの3層構造。ケーブルクランプ部は重厚かつ制振特性を持つ特殊金属を採用し、強力な制振効果を発揮



PowerFlux-NCF Cable Construction



ケーブル構造図。導体素材はα-導体（OCC素材）の高密度導体。ケーブル中間部にはシルバーカーボンフィニッシュの電磁ノイズ対策GC-303 EMI吸収材を装着。さらに振動ノイズ対策として内部にネオダンパーテクノロジーを採用

Cross Sectional View

また、その電源ケーブルを使う場所は、アンプとCDプレーヤーがあるとすれば、スピーカーを駆動する最終的な増幅部、アンプだけで十分に目標とした効果を得ることができる。CDプレーヤーは高SN比、高解像度で設計されているのが普通であるため、この部分は写実性の追求をすることがシステムの表現力としては適している。つまり、芸術性には解像度やコントラストにはマイナス要素も発生するため、システム機器の全てを芸術性の電源ケーブルで統一する必要はない。あらゆる音楽再生は解像度が必要であり、それを芸術的に調整するには、やってよい範囲があり、全てを徹底すると表現がぼやけてしまうからだ。最小限で効果を発揮するように的確に活用するのがポイントになる。

●客観的な音質性能をレポート

伸び伸びとしていて広帯域 貴重な存在のケーブルである

試聴テストはパワーアンプ（アキュフェーズA-75）に接続して実施した。透明感のある音質で、広い帯域の表現力を基調にしながら、滑らかな輪郭や雰囲気に柔らかさを持つため、引き締まる写実を徹底するマニアにはベストではないかもしれない。しかし、究極の真空管アンプの魅力を追求するマニアや、高純度なA級アンプの音を追求している用途には、多くの魅力的な要素があることを理解することができた。

ピュアでまろやかに帯域を広げ、伸び伸びとしていて、制限される要素がないのがいい。特に、声楽系の表現力を重視すると大きな魅力を感じられる。中低音や低音は弾力感のあるエネルギーで構成され、ボリュームがあって厚い。高音は刺激がなく、きめ細やかで滑らかに流れてくる。

今回のバージョンアップは、プラグとIECコネクターにNCFを採用したことが特徴になっている。この効果は、SN比の向上や中高音の冴えた音質に作用しているように思う。事実、そのことに意味のある新製品である。そして、この傾向の性能とクオリティは、低価格の電源ケーブル製品には存在しない。加えて多くの製品が存在している訳ではなく、この種のタイプを求めるための貴重な電源ケーブルになるだろう。